



鱗瓦で繋ぎ、彩る昇龍道 ～瓦を用いた法面防災曲壁による観光道の提案～

曲壁が包み込む、「みち」という公共空間の提案。
各地に点在する観光地を線で結び、活性化を図る昇龍道。
観光地を繋ぐみちの風景に、龍の鱗を思わせる瓦の曲壁が寄り添う。
日本の原風景を守りつつ、新しい風景を生み出す。

■中部北陸地区観光道「昇龍道」



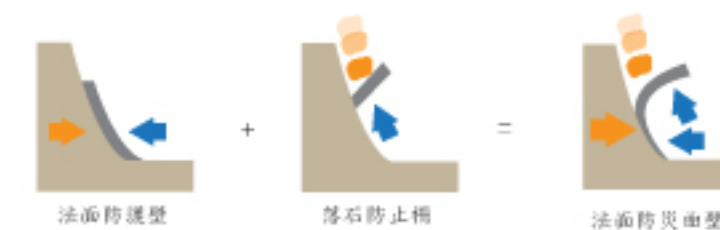
昇龍道とは、中部北陸9県の関係機関が連携して外客誘致を行う観光ルートである。中部北陸地方は、魅力的な観光地や自然が多く集まる地域であり、毎年多くの観光客が訪れる。2008年、東海北陸自動車道が開通するなど、今後観光ルートとしての発展が期待される。

■山道に沿う法面防災建設物

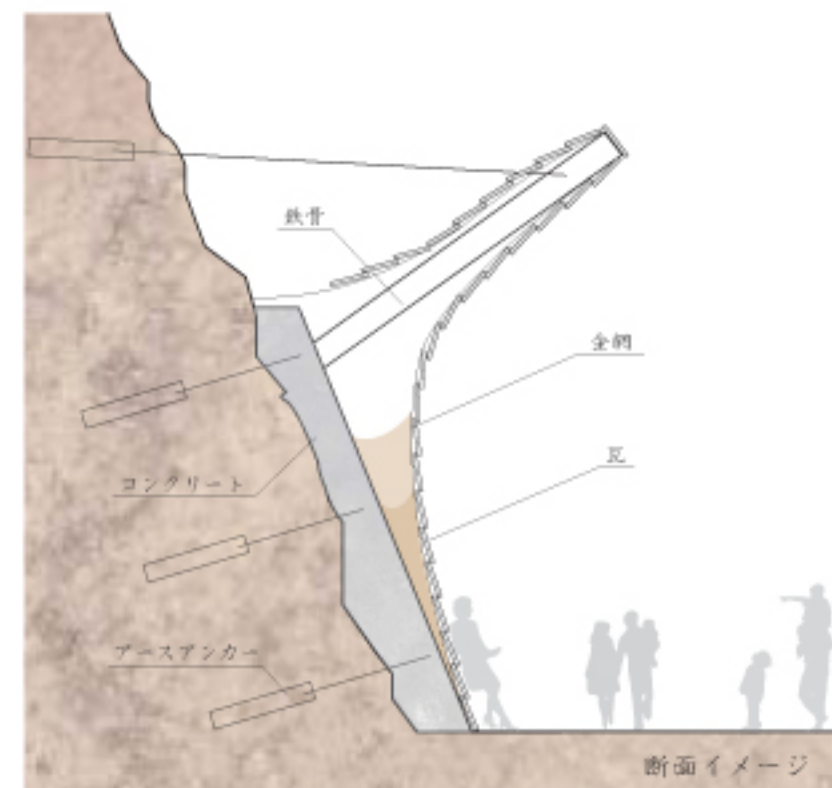


観光地と観光地を繋ぐ交通は、観光を意識しない風景が広がる。道路を作るために削られた崖にはコンクリートや金網で作られた法面防災建設物（法面防護壁や落石防止柵など）の風景が続く。この法面防災建設物に、日本の原風景のひとつである瓦をあしらうことによって、観光ルートとしての一体感を生み出す。

■新しい山道の風景を提案する



法面防護壁と落石防止柵を一体化させた、法面防災曲壁を提案する。瓦で仕上げた曲壁は、道の曲線と壁の曲線によってなめらかな形をつくりだす。



■瓦の形態と、自然の介入による経年変化

瓦で仕上げられた曲壁。なめらかな曲線と瓦ひとつひとつの表情が、重厚で冷たい法面防護壁のイメージをやわらげると共に、時が経つことで植物の成長を受け入れ、風景に馴染んでいく。
瓦の曲壁は昇龍道をめぐる旅の背景となり、新しい観光の対象ともなり得るだろう。

電車のホームを覆う曲壁



観光スポットへ向かう山道



終点地を結ぶ龍道